

参 考 資 料

- 2013年7月7日 事業評価ワークショップ報告
- 八幡湿原自然再生協議会委員名簿 2014年2月11日

事業評価ワークショップ報告

○内 容

協議会の委員や当事業の経緯を知っている一般の方を対象としたワークショップを開催し、出された意見などを踏まえて評価書の「3 まとめと今後に向けて」の部分の作成の参考とした。

○開催候補日及び会場

平成25年7月7日（日）

参加者：午前の部 24名，午後の部 25名

午前の部：再生事業地の視察

町道，遊歩道を歩きながら，事業評価作業部会のメンバーにより，チェックポイントで再生状況を説明。

午後の部

○事業評価書素案説明

空中写真でエリアを確認しながら，「現状」，「課題」，「必要な方策」，「将来像」について，一人ひとりから意見を出してもらった。

【素案に対する主な意見】

1. 昆虫類：トンボ等湿原性の昆虫を増やすために，南側のカラコギカエデ，ハンノキは伐開した方がよいのではないか。
2. 鳥類：P37の表記では，ムギマキが繁殖していると誤解を受ける表現となっているので訂正すること。
3. 生態系サービス：地元から，工事後，水の出が緩くなった，土砂の堆積が少なくなったと言う声がある。定量的なデータがなくても，地域住民の実感として評価することはできないか。

○ ワークショップ（3班）

景観について

《現状》

1. コブシが点在していてきれい。クサレダマがきれい。
2. すばらしい霧の風景

《課題》

3. 全体の景観をどうするか。エリアごとの目標植生の見直しが必要。

水文について

《現状・課題》

4. 取水堰山側の水路が埋まっていて水が回っていない。
5. 人為的な流水が多すぎるように思う。水収支を調べてはいかがか。
6. 導水路により水が供給され湿地化が進んでいると思われる。但し部分的。地形上，導水路の水が行き届かないため乾燥し，樹木が生長し元の状況に戻つつある部分が多くある。
7. 導水路の上流は藪になっており，導水路の効果がわかりやすい。

《必要な対策》

8. 埋まっている水路の補修が必要。

《将来像》

9. 下流部（二川）との合流地点は，昔は氾濫原だったので，年に何回か水があふれるようなエリアに再生したい。

植物について

《現状》

10. 雑木伐採で光が低い植物に届くようになり多彩になった。
11. イ，ミゾソバ，エゾシロネ，ハンカイソウ，ヌマトラノオ，マアザミ，キセルアザミ，クサレダマ，アブラガヤ等の湿地の植物が増加。モザイク状に群生。
12. ガマ類の拡大が心配。
13. ハンノキの葉がハムシに食われていた。

14. フランスギク、ブタクサ（外来種）が多い。外来種が思ったより弱かった。

《課題》

15. ハンノキの幼木が多い（課題）

16. 貧栄養な立地に植生が見られない。

17. ヨモギ、ノイバラが多い。カラコギカエデ、ノイバラ等による乾燥化、樹林化が進行。草、低木の刈り払い必要。場合によっては火入れが必要。

《将来像》

18. まとまった面積のヨシ群落の発達。

19. まとまった面積のハンノキ林の維持。

動物について

《現状》

20. モリアオガエル、ヤマアカガエルの産卵、繁殖が確認された。

21. 昆虫・両生類の増加→餌とする鳥類・哺乳類の復活。

《課題》

22. 水深（10～20cm）があるところではタカハヤの生息地となり、サンショウウオの幼生が捕食されて生息域が広がらない。小形動物が水路から上がれるように凹型側溝をレ型側溝にすること。

23. 4箇所。カスミサンショウウオの周囲からの侵入確認。渓流水の導水に主眼がおかれているが、周辺域からの導水も重要視すべき。流水環境と止水環境を区別する。

24. 東面から水路を利用して町道を超えて入るカスミサンショウウオをどうやって増やすか。

25. 下流側の水生昆虫類の状況が不明（課題）

26. 国内唯一のミヤマホオジロの繁殖地。まとまった面積のハンノキ林を維持する必要がある。

27. 小池が欲しい。ハッチョウトンボが増えるのでは。

施設の整備・維持管理について

《現状》

28. 手を入れたところ、残してあるところがあり、湿原再生事業の意義が伝わってくる。

《課題》

29. 入り口の看板で、自然再生の範囲がわかりにくい。

30. 下流は町道からしか観察できない。二川キャンプ場側の湿原に観察路がない。

31. 観察路が狭く、観察会等で大勢の人がいる場合は離合が難しい。

32. 下流側合流部のえぐれが拡大した。土砂（大洪水）に対する備えが必要。

33. 伐採をしないエリアの観察路沿いで、枯れた桜があり、倒木の危険。

34. 伐採事業計画の永続性。どうやって増員していくか。

《課題・必要な対策》

35. 町道が動物の移動の妨げとなっている。横断溝、暗渠を増やすべき。動物（カスミサンショウウオ）の広がり方から明らか。

36. 子供が自然（湿地、小川）の中に入れるエリアが望まれる。

37. 遊歩道（木道）の増設、親水場所（広場）を作る。案内板の増設。遊歩道地図とリンクさせる。

38. プールの増が必要。

39. 小池が欲しい。トンボが増えるのでは。

40. 河川が町道を横切る手前に遊水地を作る。石垣堤により自然に水が回るように。

41. 町道沿いの遊歩道の下の暗渠から湿地に出てくる水は、布団籠の下に流れ込み、湿原に行き渡っていない。布団籠の改変が必要。

42. 体験活動と連携した管理（草刈、除伐作業）が必要。

43. 個々の取り組みに対して明確な役割分担が必要。

44. 再生エリア周辺エリアの役割を認識し、活用や管理のあり方を探る。

45. 誰がどんなことが得意なのかの把握と、その情報の共有する場を作る。

46. 管理は山岳会のメンバーの熱意がなければ続かないのではないか。企業のCSR活動による草刈等をすすめる。日本山岳会広島支部を例にもう2～3増やす。企業+地元+協議会の連携。

47. 研究室単位等での大学生のボランティア募集。

48. 取水堰南側の低木が生長してきて、トンボやチョウが減少している。伐開したい。

49. 全体の管理計画と草刈エリア、水路の補修箇所の見直し必要

《将来像》

50. 町道西側の盛土跡地は将来的に自然に戻したい。

環境学習

《必要な対策》

51. 松枯れについては、景観上伐採すべきと言う意見と、湿原化の結果であり環境学習のために残すべきと言う意見があった。

《将来像》

52. 自然再生の状況を子供たちに教える場所として整備を行うべきと思う。本物の湿原を次世代に残す

広報活動

《必要な対策》

53. 湿原ボランティアを HP や facebook, その他様々なツールで広報する。

全般

《課題》

54. モニタリングの継続が課題。

55. オーバーユースが心配。

56. 管理エリアを拡大するよりも現状を深耕していくことが大切。

57. 湿原の売りを作ること

58. 地域とのつながり（周辺の湿地、民宿施設）

59. 将来の再生事業を可能とするためのマネジメントの確立。地元住民の対応。

《将来像》

60. 2020 年ラムサール湿地登録を目指す。

61. 年間 1 万人のカメラマン（人）が訪れる湿地。

62. 地域の人が誇りに思えるような湿原。北広島町のモデル的な湿原。

63. 西日本の尾瀬沼。

64. 人が関わっていると感じられる湿原

65. 人と生き物がたくさん集まる湿原

全体構想の目標の達成状況

66. 全体構想であげた 3つの目標に対応する評価

① 現在残されている最も古い文献資料をもとに、牧場造成前の昭和 30 年代前半頃の湿原生態系の再生を目指す。

⇒全体としてその方向に向っている。課題はあるが許容内。

② 現在も湿原が残っている場所及び以前湿地が見られた場所はマアザミ群落やヌマガヤ群落に誘導する。

⇒部分的に目標に近づいている。

地表水の多い場所はヨシ群落等に誘導する。

⇒ヨシ群落ではなく、ヌマトラノオやアブラガヤに。下流部に氾濫原を作ることにより誘導？

対象区域北部や水路沿いなどの湿潤な場所は、ハンノキ群落に誘導する。

⇒ほぼ達成

特に対象区域北部ではまとまったハンノキマアザミ群落を再生する。

⇒ハンノキマアザミ群落ではなく、ハンノキかん木となっている。かん木を伐採し、水を回す。

③ 対象区域の湿地と連続する乾燥地は、ススキ草地を維持する。対象区域内の臥竜山の森林と連続する森林は、当面ミズナラ林へ誘導する。

⇒目標と現状が乖離している。乾燥地はススキ草地ではなく、かん木やノイバラとなっている。

ススキ草地を造成するのであれば盛土跡地がよいのではないか。あるいは目標の見直しが必要。

八幡湿原自然再生協議会委員名簿

H26. 2. 11現在

| No | 区 分 | 委員氏名 | 所属 | |
|----|---------|---------|-------------------------------|------------------------------------|
| 1 | 学識経験者 | 中 越 信 和 | 専門家(植物), 会長 | |
| 2 | | 水 田 國 康 | 専門家(動物) | |
| 3 | | 野 村 吉 春 | 専門家(土木工学) | |
| 4 | | 白 川 勝 信 | 専門家(環境教育) | |
| 5 | | 内 藤 順 一 | 専門家(動物) | |
| 6 | | 佐久間 智 子 | 専門家(植物) | |
| 7 | 地元代表 | 近 藤 紘 史 | 西中国山地自然史研究会, 副会長 | |
| 8 | | 川 内 信 忠 | カキツバタの里作り実行委員会 | |
| 9 | | 高 木 茂 | 八幡地区行政区長会長 | |
| 10 | 公募 | 個人 | 青 木 晋 | |
| 11 | | | 石 谷 正 宇 | |
| 12 | | | 上 野 吉 雄 | |
| 13 | | | 大 田 実 果 | |
| 14 | | | 大 竹 園 子 | |
| 15 | | | 上 手 新 一 | |
| 16 | | | 田 坂 素 臣 | |
| 17 | | | 中 田 隆 一 | |
| 18 | | | 正 本 良 忠 | |
| 19 | | 宗 岡 泰 昭 | | |
| 20 | | 団体 | 平 田 富美子 | I W A D 環境福祉専門学校理事長・学校長 |
| 21 | | | 前 垣 壽 男 | 西条・山と水の環境機構理事長 |
| 22 | | | 堀 之 内 功 | NPOちゅうごく環境ネット理事長 (代理人 山崎 互) |
| 23 | | | 沖 田 俊 治 | 中電技術コンサルタント(株)取締役社長 (代理人 大竹 邦暁) |
| 24 | | | 兼 森 志 郎 | (公社)日本山岳会 広島支部長 (代理人 齋 陽) |
| 25 | | | 近 光 章 | (一財)広島県環境保健協会理事長 (代理人 和田 秀次) |
| 26 | | | 荒 川 純太郎 | ひろしま人と樹の会会長 (代理人 畝崎 辰登) |
| 27 | | 行政機関 | 福 井 智 之 | 環境省中国四国地方環境事務所自然再生企画官 |
| 28 | 清 水 孝 基 | | 北広島町副町長 | |
| 29 | 池 田 庄 策 | | 北広島町教育委員会教育長 | |
| 30 | 川 村 晃 | | 広島県西部農林水産事務所長 | |
| 31 | 與 儀 兼 三 | | 広島県立総合技術研究所 林業技術センター林業研究部長 | |
| 32 | 菅 原 基 晴 | | 広島県環境県民局自然環境課長 | |
| 33 | 事務局 | | 広島県環境県民局自然環境課野生生物グループ | |
| 34 | | | 北広島町役場企画課地域振興係 | |